

令和6年度 オースチン市青少年受入事業 報告書



事業概要	P1
活動スケジュール	P2
活動内容	P3
ホストファミリー体験談	P14

事業概要

■ 目的

姉妹都市オースチン市から青少年を受け入れ、ホームステイや文化体験、学生交流の機会を提供し、両市の友好親善の促進を図るとともに、市民および大分市の中高生が、交流を通して異文化理解を深めていくことを目的とする。

■ 主催

大分市国際都市交流親善会議/大分市

■ 受入期間

令和6年7月14日（日）～7月21日（日）（7泊8日）

■ 受入青少年および引率者

	氏名	性別	詳細
青少年	Eren Bassett	女性	高校2年生
	Griffin Meroney	男性	高校2年生
	Tyler Jackson	男性	高校3年生
	Alex Schwartz	男性	高校1年生
	Chaitanya Ghatty	男性	高校3年生
	Eamonn Keane	男性	高校3年生
引率者	Kristie Bryant	女性	オースチン・大分姉妹都市委員会 会長
	Jennifer Light	女性	オースチン・大分姉妹都市委員会選任

活動スケジュール

日程	時間	移動	予定	滞在先
7/14 (日)	9:25 午前	NH791 専用車	大分空港到着 歓迎会 (レンブラントホテル大分)	ホームステイ
7/15 (月・祝)			終日ホストファミリーと過ごす	
7/16 (火)	午前 昼食 午後	専用車	学校交流 (大分西中学校) 学校給食 高崎山自然動物園 大分マリンパレス水族館 うみたまご	
7/17 (水)	午前 昼食 午後	専用車	学校交流 (大分上野丘高校) 郷土料理弁当 (鶏めし) 道の駅 たのうらら 杵築市見学・着物体験	ホテル
7/18 (木)	午前 昼食 午後	専用車	学校交流 (大分西高校) 郷土料理 (りゅうきゅう・とり天・だんご汁) 万寿寺見学 市長表敬訪問 平和市民公園能楽堂 (能・茶道体験) 大分駅でショッピング 春日神社見学 (夏祭り)	
7/19 (金)	午前 昼食 午後	専用車	別府市竹細工伝統産業会館 (竹すず体験) 地獄めぐり (海地獄・鬼石坊主地獄) 地獄蒸し 地獄温泉ミュージアム みょうばん・湯の里 地獄蒸しプリン	
7/20 (土)	午前 昼食 午後	専用車	ホストファミリーと過ごす 送別会 (ArtTable いろのわ)	ホームステイ
7/21 (日)	7:35	NH792	大分空港出発	

事前説明会 開催日程

6月22日(土) : ホストファミリー事前説明会

■ はじめに

大分市は「青少年グローバル人材育成推進事業」と題し、令和4年度、令和5年度と姉妹都市オースチン市に大分市内の中学生6名を派遣しました。今回は初の試みとしてオースチン市から青少年6名と引率者2名を大分市に受け入れ、7月14日から21日までの8日間、ホームステイ体験をはじめ、学校交流、日本文化体験等を通して大分市民との交流を行いました。

■ 1日目 [令和6年7月14日(日)]

<大分空港到着>

定刻通り朝一便の飛行機が大分空港に到着し、手荷物受取場を抜けた青少年6名と引率者2名を、アメリカ国旗やテキサス州旗を手にした国際課職員が出迎えました。

長時間のフライトに加えて、アメリカとの時差があるため到着時の疲労が心配されましたが、その必要はなく、全員が大分での活動を楽しみにしてくれていました。



<歓迎会>

ホストファミリーとの顔合わせも兼ねた歓迎会では、永田企画部長が「大分の文化や生活を存分に楽しんでください」と乾杯の挨拶を行いました。

各家庭温かく青少年を迎え入れていただき、どのテーブルもお互いの自己紹介や今後の予定について話に花が咲きました。午後はそれぞれホストファミリーと自由時間を過ごしました。



■ 2日目 [令和6年7月15日 (月・祝)]

ホストファミリーと充実した一日を過ごしました。



■ 3日目 [令和6年7月16日(火)]



<学校交流（大分西中学校）>

この日から学校交流がスタートし、オースチン市青少年にとって初めての日本の学校訪問となった大分西中学校（以下、大分西中）では2年生全員が盛大な拍手で出迎えてくれました。



歓迎の校歌斉唱の後、大分西中の生徒代表とオースチン市青少年がそれぞれ自分たちの市や学校について紹介するプレゼンテーションを行いました。特に日本とアメリカの学校制度には大きく違う部分もあり、お互いの発表に聞き入っていました。



その後、言葉を発さずにジェスチャーだけで意思疎通を図り誕生日ごとに列を作る「バースデーチェーン」や「○×クイズ」、「ドッジボール」を行いました。

続いて、大分西中の生徒代表が武道場や美術室など学校内を案内してくれ、オースチン市青少年は「武道場の畳のにおいが素晴らしい」や「廊下に飾られていた美術部のポスターが美しい」など、日本とアメリカとの学校の違いを感じ取っていました。

校舎見学後は各クラスに2名分ずつ席を用意していただき、大分西中の生徒の皆さんと混ざって一緒に日本の学校給食を食べました。

この日の献立はコッペパン、スパゲティナポリタン、野菜サラダ、牛乳で、アメリカとは大きく違う日本の給食はとても新鮮だったようです。お昼の校内放送が流れる中、クラスの生徒と交流を深め、「日本の学校の日常」を味わう貴重な体験ができました。



<大分マリンパレス水族館 うみたまご>

開館当時、世界初とされた水槽の中心に擬岩でできた島の周りを海水が流れる大回遊水槽をはじめ、豊後水道に生息する魚介類など、様々な魚を鑑賞しました。

またイルカのパフォーマンスや芸達者なセイウチのパフォーマンスも観ることができ、ふれあいタイムでは、希望者がセイウチに直接触れての写真撮影を行いました。



<高崎山自然動物園>

次に「高崎山自然動物園」に行き、野生のニホンザルを鑑賞しました。「さるっこレール」が山を登るにつれて、だんだんと木や建物の上にサルの姿が見えてきて、全員がサルを探すのを楽しんでいました。

サルの寄せ場に到着すると、ちょうど餌やりの時間になり、サルがたくさん集まってきました。サルが自分の股の間を通り抜けると幸せが訪れるといわれる「サルの股くぐり」にも挑戦し、9匹のサルが股をくぐった幸運な青少年もいました。

■ 4日目 [令和6年7月17日(水)]



<学校交流(大分上野丘高校)>

午前中は大分上野丘高校にて学校交流を行いました。高校に到着すると応接室に案内していただき、校長先生と生徒代表から英語で歓迎の挨拶があり、続いてオースチン市青少年も日本語で挨拶を行いました。



校舎見学では、各教室や図書館などを見て回りました。授業時間中だったため古典の授業や音楽の授業等、実際に日本の高校生が受けている授業を見学することができました。

その中でも英語の授業を行っている教室では、短時間でしたがオースチン市青少年が飛び入りで参加し、教室内の生徒と一緒に英単語を読み上げるなど、非常に和やかな交流となりました。



校舎見学終了後は、1年6組の英語の授業に参加し、オースチン市青少年による紹介プレゼンテーションが行われた後、自己紹介やおすすめの旅行先など、与えられたトピックについて様々な会話を楽しみました。

今回参加したオースチン市青少年は全員が高校生ということもあり、好きな歌手やドラマなど同世代の話で盛り上がっていました。

午後は杵築市見学を予定していたため、昼食は道中に大分の郷土料理である鶏めし弁当を食べ、新しくオープンした「道の駅たのうらら」にもトイレ休憩を兼ねて訪れました。各自展望デッキから海を眺めたり、売店で家族へのお土産などを購入したり自由な時間を過ごしました。



<杵築市見学>

杵築市にて浴衣体験とお城・城下町見学を行いました。好きな色の浴衣を着付けてもらった後、ガイドの案内のもと、杵築城に向かいました。

中に入ると様々な文化財を鑑賞でき全員が歴史を感じ取っていました。最上層にたどり着くと海を見渡せる美しい眺望に全員が声をあげ感動していました。



杵築城の後は、杵築藩の上級武士の屋敷である大原邸にも訪れました。大原邸は当時の生活様式が色濃く残っており、魔よけのために赤色で塗られている玄関の壁や弓矢の練習のために天井の一部を高くした仏間など、全員がガイドの説明に真剣に耳を傾けていました。



最後に日本唯一といわれる「サンドイッチ型城下町」を代表する酢屋の坂を歩き、この日は終了となりました。

■ 5日目 [令和6年7月18日(木)]



<学校交流（大分西高校）>

午前中は大分西高校にて学校交流を行いました。1,2年生の希望者30名が参加してくれ、校長先生の歓迎挨拶、生徒代表による堂々とした歓迎スピーチの後、オースチン市青少年による紹介プレゼンテーションを行いました。



次にサイコロトーク（サイコロを振って決められたお題について話を行うゲーム）をグループに分かれて行いました。サイコロの目に合わせた6つのお題はどれも盛り上がる内容で、楽しそうな笑い声や「え〜！」というような驚きの声も聞こえてくるなど、お互いの文化や夢、今後の目標等を語り合い、充実した時間を過ごしました。



各グループで校舎見学を行い、校内に自販機があることに驚くなど、日本とアメリカとの学校の違いについて理解を深め、最後に集合写真を撮り交流は終了となりました。

昼食は、大分市内のレストランにてりゅうきゅうやとり天、だんご汁など大分の郷土料理を堪能し、その後、線香の香りが漂う万寿寺を見学するなど日本のお寺を満喫しました。



<大分市長への表敬訪問>

大分市役所にて市長を表敬訪問しました。まず大分市長より歓迎の挨拶があり、続いて引率者のオースチン・大分姉妹都市委員会のクリスティ・ブライアント会長から、訪問者を代表して挨拶がありました。

オースチン市青少年と引率者に今回の滞在の感想を述べてもらった後、双方の記念品を交換しました。



<平和市民公園能楽堂>

能楽堂では、能面を鑑賞し、女性の嫉妬の深さにより能面の表情に変化があることを教えてもらい、全員が驚いた様子でした。

また、茶道体験では、講師の先生のお点前を拝見した後、美しい日本庭園を眺めながら抹茶とお茶菓子をいただきました。

その後、大分駅に併設されているアミュプラザおおいたにてショッピングをしました。



<春日神社夏祭>

夏祭りの会場にて令和4,5年度に大分市からオースチン市に派遣された中学生ならびにそのご家族と合流し、神楽の奉納鑑賞や屋台での買い物を楽しみました。

■ 6日目 [令和6年7月19日(金)]



<竹鈴づくり体験>

この日は日本を代表する温泉地である別府市で終日観光を行いました。

まずは「別府市竹細工伝統産業会館」に到着し竹鈴づくり体験を行いました。オースチン市青少年は苦戦しながらも、講師の方々の補助もあり、上手に竹鈴を作りました。

その後は会館内の展示室にて最近のインテリア用品から名工の美術工芸品まで数々の別府竹細工を鑑賞しました。



<地獄めぐり（海地獄、鬼石坊主地獄）>

ガイドの案内のもと、別府の中でもとりわけ人気の観光名所である鬼石坊主地獄と海地獄に行きました。

鬼石坊主地獄では湧き上がる熱泥がまるで坊主頭のように見える様子を見学し、海地獄では地熱を利用した温室のほか、海のように美しいコバルトブルー色の熱泉の前で記念撮影を行いました。



<昼食（地獄蒸し料理）>

昼食は温泉の蒸気で食材を蒸した地獄蒸し料理を食べました。

足湯をしながら料理を食べられる場所となっており、外は猛暑のため暑かったですが、非常にいい思い出となったようです。料理はどれもおいしく、すぐそばにある地獄蒸しのかまどで作ったことを教えてもらおうと、全員驚いた様子でした。



<地獄温泉ミュージアム・明礬エリア散策>

その後、地獄温泉ミュージアムを訪れました。この施設は、近年オープンしたばかりの新しい施設で、雨水が温泉水になるまでのメカニズムを紹介するプロジェクトンマッピングがあったり別府温泉の歴史を浴場の中にあるようなデザインのシアターがあったりと、別府ならではの施設で、オースチン市青少年からは、「新鮮で楽しかった」と感想がありました。

最後に明礬エリアに向かい、明礬 湯の里にて湯の花を見学し、その後、明礬エリアで有名な地獄蒸しプリンを堪能しました。

■ 7日目 [令和6年7月20日(土)]



<送別会>

この日は、夕方の送別会までホストファミリーと一緒に過ごす日で、オースチン市青少年はホストファミリーと最後の自由時間を楽しみました。

送別会では、冒頭に国際課長よりオースチン市青少年と引率者、ホストファミリーに対し、本事業参加へのお礼と今後の姉妹都市交流の展望について挨拶があり、その後、乾杯を行い送別会が始まりました。ホストファミリーごとにテーブルに座り食事を楽しみ、途中、オースチン市青少年によるギターの披露もあり会場は非常に盛り上がりました。

最後に全員が一言ずつ挨拶を行い、青少年からは「このプログラムに参加して、素晴らしいホストファミリーに出会えてよかった」や「また大分に来たい」といった感想が寄せられました。

あっという間に時間が経ち、惜しまれつつも送別会は閉会となりました。



■ 8日目 [令和6年7月21日(日)]



帰国の日を迎え、早朝大分空港にて、国際課職員ならびに全てのホストファミリーでお見送りをしました。空港の入口前で最後の全体写真を撮った後、空港ターミナルが開館し、搭乗手続きを行いました。

保安検査場を通過するまで全員で見送りをを行い、並んでいた時には、別れを惜しみ涙する姿もあり、この1週間のホームステイの濃さが感じられた瞬間でした。大分市、オースチン市にとって思い出に残る受入事業となりました。

■ 担当職員より

本事業は姉妹都市オースチン市との青少年相互交流事業の一環で、今年度は初めてオースチン市から青少年6名と引率者2名を受け入れました。参加者の中には令和4,5年の中学生派遣事業での交流をきっかけに参加した青少年もあり、派遣と受入の相乗的な効果を実感でき大変うれしく思っている次第です。また本事業は、7月の実施となり、気温や梅雨の影響が懸念されましたが、天候にも恵まれ、特に大きな問題が発生することがなく、全行程を終了できたことに大変安堵しています。

数ある交流の中でも、特に学校交流はオースチン市青少年と大分市の中高生にとって非常に意義深いものでした。オースチン市青少年にとっては、同世代の学生と交流し、日本の文化や価値観について触れる貴重な機会となり、大分市の中高生にとっては、普段勉強している英語を使ってコミュニケーションを取り、世界に視野を広げる絶好の機会となりました。実際、オースチン市青少年のアンケートでは、学校交流が大変好評で、「同世代の学生と交流ができて良かった」といった感想が見受けられました。一方、大分市の中高生からは、「姉妹都市であるオースチン市に興味を持った」という声も聞くことができました。大分市の中高生には、ぜひこの貴重な交流を契機とし、グローバルに活躍できる人材に成長していただきたいと願うとともに、双方向の交流が続いていくことを期待しております。

そしてオースチン市青少年には日本文化体験・県内見学を通して、大分市の魅力を存分に感じてもらったのではないかと思います。これを契機にぜひ大分市をPRしてもらい、将来の姉妹都市交流を担う存在になっていただくことを心から願っております。

また何よりも、今回の事業はホストファミリーのご協力なしには決して成り立たないものでした。仕事や家庭でお忙しい中、毎日の市役所への送迎をはじめ、日中の活動後にはオースチン市青少年に様々な日本文化や料理を体験させていただき、ホストファミリーと過ごす日には遠方まで青少年を観光に連れて行っていただくなど、皆様には心から感謝しております。

加えて本事業にご協力いただきました各学校や観光施設等の皆様にも各所で多大なるご配慮をいただき、大変お世話になりました。重ねてお礼申し上げます。

来年は記念すべき姉妹都市提携35周年となります。今後も、両市の市民が一人でも多く姉妹都市であることを誇りに思えるよう、大分市とオースチン市の友好関係の促進に努めるとともに、両市の青少年交流が継続して実施できるよう、関係各所との連携を緊密に行いながら、引き続き尽力してまいります。

令和6年度オースチン市青少年受入事業 ホストファミリー体験談

ホストファミリー Aさん

私自身、学生時代にカナダでホームステイをした経験がとても有意義だったこと、現在小1と2歳の娘たちに国際交流の実体験をしてもらいたかったことなどから、今回ホストファミリーに挑戦してみることを決めました。

私たち家族は、16歳のアレックスをお迎えしました。彼はまだ日本語の勉強を始めたばかりで、ほとんど日本語を話すことができませんでしたが、日本の文化にとっても興味を持って、いろいろなことに挑戦してくれました。

休みの日には、大分のいろいろなところと一緒に出かけました。豊後高田市の真木大堂や富貴寺を訪れた際には、仏像ひとつひとつの意味を英語で説明するのは私にとっても難しかったですが、私自身知らなかった歴史を勉強するきっかけとなり、新たな発見がありました。城島高原の遊園地に行った際には、娘たち2人を順番に隣に乗せて、2回もゴーカートを運転してくれました。夫と二人、温泉にも挑戦しました。別府のお湯は熱すぎたようでしたが・・・



平日は夕方に活動から帰ってくるアレックスをお迎えに行ってからが家族の時間です。アレックスは体操競技、我が家の長女は新体操をしているという共通点もあり、長女の新体操の練習を見学に行ったこともありました。アレックスは「オースチンで練習している体育館とすごく似ている！」と言って驚いていました。

また、夕食後には日本語の練習も兼ねて、かるたで遊ぶのが日常でした。最初は長女の圧勝が続きましたが、最後の日の最後の勝負で、とうとうアレックスが長女に1枚差で勝ちました。とてもいい勝負でした。

たった1週間でしたが、今回の経験は家族全員にとって大きな財産になりました。長女は「言葉がわからなくても楽しかったけど、英語がもっと話せたら、アレックスと話したいことがもっとあった。これからもっと英語の練習を頑張りたい！」と意気込んでおり、頼もしい限りです。次女も、「アレックス今度いつ来るかなあ」と楽しみにしています。

我が家は夫婦ともフルタイムで働いており、応募する際には多少の時間的な不安もありましたが、実際のところ大きな負担感もありませんでした。また、家族の中で英語が話せるのは私だけでしたが、夫も翻訳アプリなどを使って十分コミュニケーションを取ることができました。もし、ホストファミリーに少しでも興味を持たれたらぜひ挑戦してみることをお勧めします！



令和6年度オースチン市青少年受入事業 ホストファミリー体験談

ホストファミリー Oさん

今回私たちは、子どもたちにより生きた英語に触れ多文化理解を深めてもらいたい、という思いでこの事業に応募しました。最初はお互い少し緊張していましたが、すぐに打ち解けることができ、平日の夜には、アメリカでの生活のことを質問したり、カードゲームやクイズ、花火などで遊んだり、たこ焼きパーティーをしたり、楽しみながらコミュニケーションを図ることができたかなと思います。



今回、我が家では大分の良さを伝えるべく食文化や温泉を楽しむことをテーマに休日の計画を立てました。メインの休日には、蕎麦打ち体験、宇佐神宮、別府の温泉というコースを廻りました。自分で打った蕎麦のおいしさは格別だったようでとても喜んでもらえましたし、雨上がりの宇佐神宮の風情にもとても感動していました。温泉も気に入ってくれたようで、最終日に「この一週間で心に残ったことを書道で書いてみよう」と提案して、彼が選んだ言葉は【温泉】でした。



来日前は、生徒のプライベートな時間をどこまで確保してあげればよいか、また、彼が日本語を勉強中という事もあり、会話は英語と日本語のどちらが良いのかという点に悩みました。しかし蓋を開けてみると、彼のオープンな性格も幸いして、入浴と就寝以外は常にリビングで私たちと過ごしてくれました。リビングや他の部屋も常にオープンにしておいたことも良かったのだと思います。会話についても英語と日本語をMIXしながらの会話で、時々翻訳アプリも使いましたが、中学～高校レベルの英語力で十分対応できました。英語と日本語のニュアンスの違いなどについて教わる場面もあり、子どもたちにとっても大変勉強になったと思います。

今回ホストファミリーとして一週間で過ごせたことはかけがえのない財産になりました。何よりオースチンの生徒との素晴らしい出会いに感謝しています。受入れが始まるまでは、家族でウェルカムボードを作成したり、何を楽しんでもらおうかなあと一週間の計画を立てたり、来日までの時間を楽しみました。そして帰国後の今は、テキサス州の天気を見たりオースチンの時間を確認したり、子どもたちも自然とオースチンや世界とのつながりを意識するようになっていきます。初めてのホストファミリーでしたが、丁寧にサポートしていただいた本事業のスタッフの皆様に心より感謝いたします。



令和6年度オースチン市青少年受入事業 ホストファミリー体験談

ホストファミリー Sさん 1/2

今回、我が家で受け入れることになったのは日本語を勉強している18歳の男子高校生でした。迎え入れる一週間前にZOOMで話を一緒にどこに行こうか、何をしようか話し、子どもたちと彼が来る日を楽しみにしていました。休日には、宇佐神宮や中津城に行ったり、そば打ち体験、ソニックに乗ったり、カラオケに行ったりしました。平日は家でたこ焼きを作ったり、近くの温泉に行ったりして過ごしました。



なかでも一番の思い出は、夕食後にみんなでボードゲームや国旗クイズをしたり、楽しい時間を過ごしたことです。特に日本語のカードゲームで、読み上げた条件に合うカードを早く見つけるかるたゲームは留学生も4歳の子も互角に戦いとても盛り上がりました。

留学生受入れ前は、ずっと英語でコミュニケーションをとることになるかなと思っていましたが、留学生の「もっと日本語を流ちょうに喋れるようになりたい!」という希望を聞いて、留学生はなるべく日本語で話す、私たち大人はわかりやすい日本語で話す、通じないときは英語で話すことを心がけました。そして中学生の長男はなるべく英語で話す、4歳の次男は好きな言葉で話すようにしました。

大きな発見だったのは英語でコミュニケーションを取るよりも相手にわかりやすい日本語で伝えるのはずっと難しいということでした。それでも私たちは、お互いの言葉のバランスがちょうどよく意思疎通を図ることができ、言葉や文化の学びも多くありました。カラオケでは留学生は日本語の歌、長男は英語の歌を選んだり、お互いの好きな歌を一緒に歌ったり、楽しい時間を過ごすことができました。留学生の日本語をもっと話せるようになりたいという向上心には本当に感心させられましたし、いつも笑顔でしっかりとした彼の様子は子どもたちにとってのロールモデルとなり、とてもいい刺激をもらいました。

ホストファミリーになって感じたのは、こちらが「こうした方がいいかな。」と先回りして考えるよりも留学生と相談し、一緒に考えることが大事だということです。例えば、休日に観光地を回るのに「疲れているだろうから、あちこち回るのはきついな」とも思いましたが、留学生に聞くと「元気だから大丈夫。行きたい!」といったこともありました。積極的に言葉に出して、コミュニケーションを取ることが必要だと感じました。

令和6年度オースティン市青少年受入事業 ホストファミリー体験談

ホストファミリー Sさん 2/2

今回、我が家が、ホストファミリーに応募しようと思ったのは、5年前に留学生とそのホストファミリーと一緒に料理を作り交流したことがとても心に残っていたからです。けれども言葉や文化の違う学生を受け入れるのは食事や生活習慣も違って大変だろうと躊躇していました。今回のオースティン市からの受入れは1週間ということで、1週間ならチャレンジしたいと思い応募しました。実際は、本当に慌ただしい1週間でしたが、とても濃密な時間でもっと期間が長かったらよかったのにとさえ思いました。

ホストファミリーになる前は、自分たちはもてなす側だという意識でしたが、むしろ私たちのほうこそ一緒に過ごし楽しい時間を与えられたように思います。我が家に滞在したのはたった一週間の出来事であったとは思えないくらい、早朝の空港での別れは、次男はずっと泣いていて、私たちも本当に寂しく感じました。

留学生とは帰国後もSNSやZOOMで連絡を取り合い、「いつか再会したいね、日本でもアメリカでもいいから」と話をしています。

最後にオースティン市からの留学生たち、他のホストファミリーの方々、引率の方々、大分市国際課の職員の方々との出会いは、本当に貴重な体験でした。自分が外国へ留学する側ではなく、受入れる側でこのように魅力的な人々との出会いを体験することになるとは思っていませんでした。このような機会をいただき、縁あってつながりができたことに感謝しています。ありがとうございました。



令和6年度オースチン市青少年受入事業 ホストファミリー体験談

ホストファミリー Hさん

鶴崎支所で見かけたポスターでホストファミリーのことを知る数日前、たまたま夫と「将来子どもが留学に興味をもったらどうする？」などと話しをしていました。そんな中でポスターを見かけた訳なので、勝手ながら仲間意識のようなものを感じました。英語に自信は全くありませんでしたが(中学・高校真面目に勉強したレベルです笑)、ありがたい事にホストファミリーとして選んでいただき、日本語が上手なチャイクンを我が家に迎えることになりました。どんな子が来るのか不安が少しありましたが、zoomやLINEで顔合わせなどのやり取りをすることで来日する前にいろいろ知ることができ、不安は解消され会うのが一層楽しみになりました！職員の方にもメールで相談に乗ってもらったりとありがたかったです♪



チャイクンは日本人の私たち以上に日本の文化を好きでいてくれていて、それが純粹に嬉しかったです！御朱印集めや剣道、柔道、能楽の講演会など彼が興味のあることを一緒に沢山楽しみました^^とても嬉しそうにしてくれるので毎度私たちも嬉しかったです。1週間色んな話をして、色々な体験を共にしていき、彼のことを知るたびに家族全員がどんどん彼のことを好きになりました。一緒にご飯を食べたり遊んだり、英語の絵本を読んでもらったりと、わ

が子たちもチャイクンと関わることで良い経験ができました。私たちは友達のように冗談を言い合えるくらいに仲が深まったことで、見送りからの数日間、寂しさで涙を流してしまうくらいにチャイロスになりました(笑)「俺にとって最高の1週間だった」とメッセージももらった時も嬉しくて寂しくて涙が止まりませんでした(笑)

“どうしたら喜んでくれるかな？”という気持ちを持つことができれば誰でもホストファミリーになれるのではないかなと思います^^そして一歩踏み出す勇氣です。私たちも“上手くいくか分からないけどやってみる”でやってみた結果、最高の1週間と出会いを手に入れることが出来ました^^これからの家庭の状況にもよりますが私たちもまた挑戦するつもりでいます！



令和6年度オースチン市青少年受入事業 ホストファミリー体験談

ホストファミリー Fさん 1/2

☆ホストファミリーになった理由☆

まず、私は令和5年度大分市中学生オースチン派遣事業に参加させていただき、沢山のかけがえのない経験を得ました。

その事から、真の国際交流を実現する為には、受け入れる側の立場を経験する事も必須であると考えました。お互いの生活環境、文化を知る事は大切な入り口で、そこから発展して行くと思います。

もう一つの理由として、大分市の中学生を受け入れて下さったオースチンの皆さんへの感謝の気持ちを、形にできると思ったからです。

オースチンの青少年のサポートをしながら、自分自身の成長にもつながる素晴らしい機会に出会えると考え、迷う事なく応募しました。



☆印象に残ったこと☆



受入れた生徒は、物静かで思うように会話が弾まず、どのようにコミュニケーションを深めたら良いのか迷いました。

そんな私達を助けてくれたのは、日本のアニメでした。

特に、大分県出身の諫山先生の「進撃の巨人」については私達よりも詳しく、解説してくれる程でした。日田にあるモニュメントを訪れた辺りから、笑顔とおしゃべりが増え心の距離が近くなったと感じました。

改めて私達の考えていたおもてなしと、実際に彼が行きたい場所はかけ離れており、人を楽しませる事の難しさを思い知りました。

そしてもう一つ私達のコミュニケーションを後押ししてくれたのは**日本の食**です。寿司はあまりにも有名ですが、他にもラーメンやとんかつ等を気に入ってくれました。

そして大分県の自慢の**温泉**は、硫黄の匂いを除いては良い経験になった様です。おおいの魅力を海外の方から学んだ1週間でした。

令和6年度オースチン市青少年受入事業 ホストファミリー体験談

ホストファミリー Fさん 2/2

☆今後ホストファミリーになる方へ☆

ホストファミリーと聞くと、語学力が必要だと考えるのではないのでしょうか。しかし、今回の経験を通して大切なのは語学力よりも気持ちを伝えようとする積極性、様々な個性の違いを受け入れる寛容な心だと感じました。

私達家族が経験したこの気持ちを、より多くの家族と共有し大分市の国際交流を支える一員でありたいと思います。



令和6年度オースチン市青少年受入事業 ホストファミリー体験談

ホストファミリー Mさん

私たちは初めてホストファミリーとしてホームステイの受け入れに挑戦しました。以前よりホストファミリーをすることに憧れていたこともあって、とても楽しみに参加させていただきました。私たちの家にホームステイに来てくれた生徒さんは、お母さんが日本人ということもあり、コミュニケーションはすべて日本語でできる程、日本語がとても流暢でびっくりしました。また、性格も明るく礼儀正しく、思いやりのある素敵な高校生でした。



中3と小6の子供たちにとっても話やすく、普段の高校生活の話や好きな音楽の話から、ちょっと難しい政治の話まで、毎日たくさんのお話をしていました。

何でもやってみたい、食べてみたい、おすすめのものをたくさん試してみたいという希望だったので、子供たちが好きなカラオケに一緒に行ったり、プリクラを撮ってみたり、大分



らしく湯布院でモーニングを食べたり、志高湖で白鳥や鯉に餌をやってみたり、浴衣を着て地域のお祭りに行ってみたり、杉乃井ホテルの温泉に行ったり、豊後高田の昭和の町に行ったりしました。

食事に関しては、朝は和定食やおにぎり定食、パン食など普段食べている食事を自宅で食べ、夜はほとんど外食で、とんかつやお寿司、蕎麦など、日本らしい食べ物を食べました。

元々、いろんな日本食に親しみがある生徒さんだったので、湯葉料理を食べに行ったところ、やっと「初めて食べた！」と言ってもらえるものを見つけられて嬉しかったです。また、自宅でたこ焼きパーティーをしたのも楽しんでもらえたようでした。

他にも、子供たちの友人を招いて一緒に花火をしたり、かき氷を食べたりもしました。子供たちが通っているお習字教室で一緒に体験させてもらい、名前を漢字で書く練習をさせてもらったりして、お習字作品も良い記念になったようです。

最後になりましたが、今回のホームステイ事業に関しまして、素敵な縁と多大なサポートをいただいた皆様に感謝申し上げます。今後とも大分市とオースチン市との結びつきがより一層強くなることを願っております。

